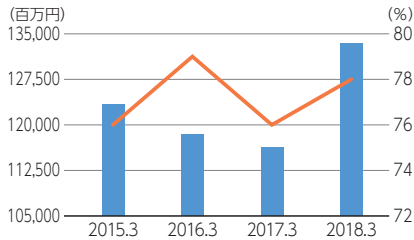
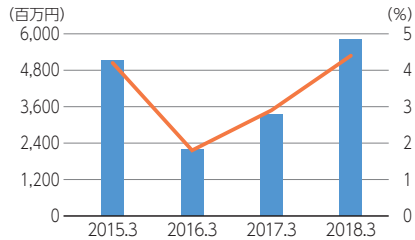


# 財政状態及び経営成績の分析

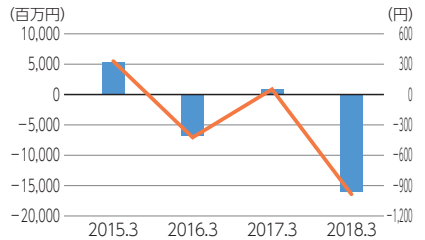
1 ●売上高 ●海外売上高比率



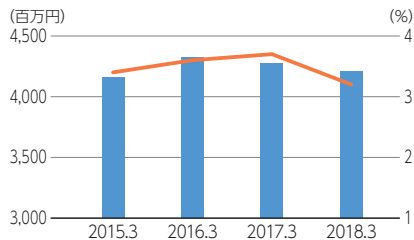
2 ●営業利益 ●営業利益率



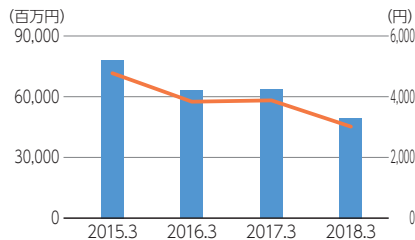
3 ●親会社株主に帰属する当期純利益 ●1株当たり当期純利益



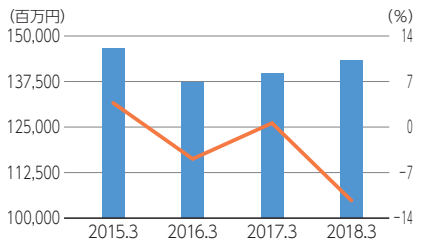
4 ●研究開発費 ●売上高比率



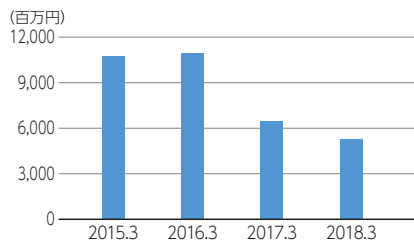
5 ●純資産 ●1株当たり純資産



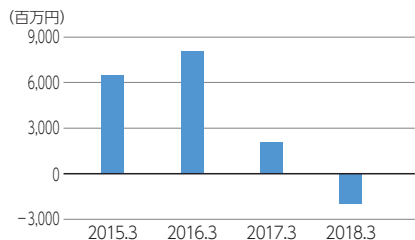
6 ●総資産 ●ROA



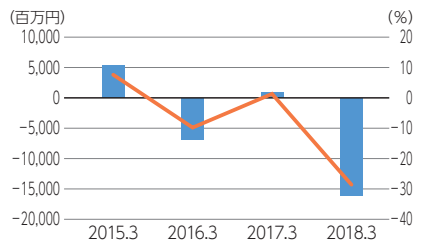
7 営業活動によるキャッシュ・フロー



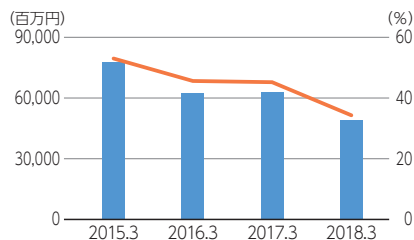
8 フリーキャッシュ・フロー



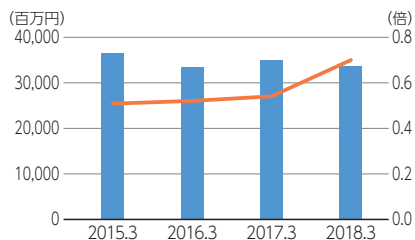
9 ●親会社株主に帰属する当期純利益 ●ROE



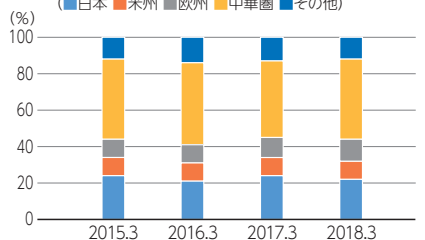
10 ●自己資本 ●自己資本比率



11 ●有利子負債 ●D/Eレシオ



12 地域別売上高構成比



**1 売上高、海外売上高比率** 2018年3月期の売上高は、中国を中心としたアジア地域において、生活家電・車載関連の需要が増加したことなどにより、1,333億62百万円(前期比14.7%増)となりました。地域別では、日本は前期比7%増、海外では中国、欧州は前期比20%増、米州他の地域においても前期に比べ増加し、海外売上高比率は前期76%から78%となりました。

**3 親会社株主に帰属する当期純利益、1株当たり当期純利益** 期末にかけての円高による為替差損の計上、独占禁止法関連損失を計上したことなどにより親会社株主に帰属する当期純損失160億56百万円(前期親会社株主に帰属する当期純利益8億40百万円)となりました。

この結果、1株当たり当期純利益は、前期51円57銭から、当期は△985円77銭となりました。

なお、2017年10月1日付けで株式併合を実施しています。これに伴い、2015年3月期期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しています。

**4 研究開発費** 2018年3月期の研究開発活動は、当社の強みである材料技術を活かした新製品を開発し、成長が見込める市場に向けて製品の充実を図りました。当連結会計年度の研究開発費総額は42億8百万円(前期比64百万円減)となりました。

**5 純資産、1株当たり純資産** 2018年3月期の純資産は、独占禁止法関連損失の特別損失の計上などもあり親会社株主に帰属する当期純損失を計上

しました。これにより、前連結会計年度末に比べ141億61百万円減少し、494億10百万円となりました。この結果、1株当たり純資産は3,012円97銭(前期3,877円73銭)となりました。

なお、2017年10月1日付けで株式併合を実施しています。これに伴い、2015年3月期期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産を算定しています。

**6 総資産** 資産は、売上増による売掛金の増加などにより、1,432億41百万円(前連結会計年度末比34億72百万円増)となりました。負債は、借入金の返済による減少などありましたが、独占禁止法関連に係る未払金の計上もあり、前連結会計年度末比176億34百万円増加し、938億30百万円となりました。

**7,8 キャッシュ・フロー** 営業活動によるキャッシュ・フローは、売上増による売上債権やたな卸資産の増加等ありましたが、減価償却費66億32百万円の計上などにより、53億5百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、アルミ電解コンデンサ用電極箔生産設備やアルミ電解コンデンサの生産設備の増強投資の実施等により、72億65百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いや借入金の返済などにより17億59百万円の支出となりました。